

組 織, 情 報, そ の 他

(1) 沿 革

昭和22年林政統一による機構改革に伴い、林業試験研究機関を整備することになり、同年4月大阪営林局内の試験調査部門を編成替のうえ農林省林業試験場大阪支場として局内に併置された。

関 西 支 場

- 昭和25. 4 京都市東山区七条大和大路に大阪支場京都分室設置さる
- 昭和27. 7 京都分室を廃止し、そのあとに支場を移転し京都支場と名称を改む
- 昭和28. 2 新たに伏見区桃山町に支場庁舎敷地として国有林の所属替をうけ、同時に桃山研究室を設置
- 昭和31. 3 庁舎、研究室を新築、移転
- 昭和34. 7 関西支場と名称を改む
- 昭和40. 3 研究室等を増改築
- 昭和41. 4 部制設置（育林、保護の2部）
- 〃 防災研究室を岡山試験地から移設
- 昭和51.11 庁舎、研究室（昭和31. 3新築のもの）を改築

岡 山 試 験 地

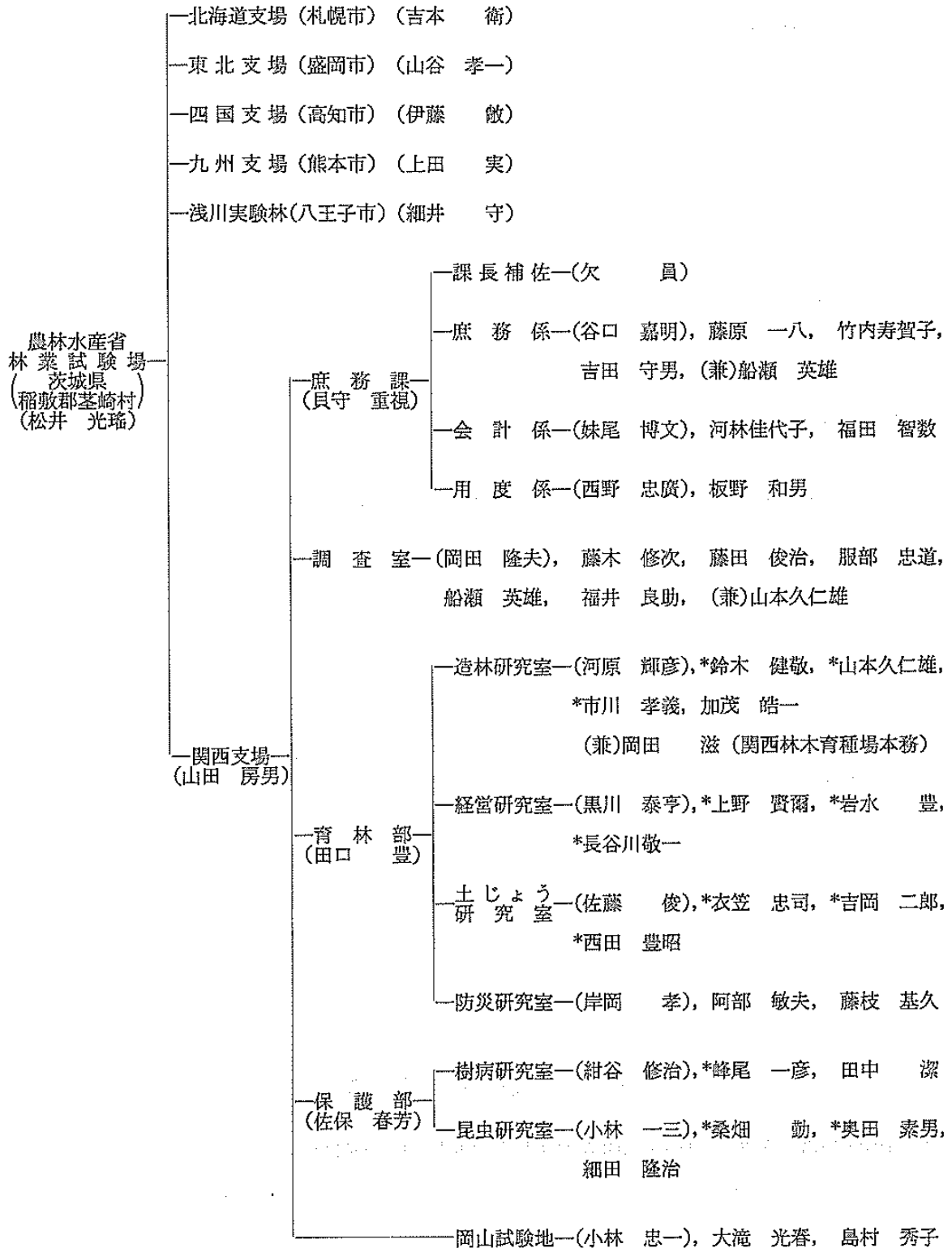
- 昭和10. 8 岡山県上道郡高島村に水源涵養試験地として設置
- 昭和13. 1 林業試験場高島試験地と名称を改む
- 昭和22. 4 林業試験場大阪支場の所管となり、同支場高島分場と名称を改む
- 昭和27. 7 林業試験場京都支場高島分場と名称を改む
- 昭和34. 7 林業試験場関西支場岡山分場と名称を改む
- 昭和41. 4 林業試験場関西支場岡山試験地と名称を改む

(2) 土地および施設

1. 土 地	関西支場	岡山試験地
庁舎敷地	60,669m ²	12,254m ² (67,897m ²)
内 訳		
庁舎および付属敷	11,539	(1,999)
苗 畑	13,270	4,264
樹 木 園	7,862	7,990
見本林, 実験林	27,998	(65,898)
宿 舎 敷 地	9,373	915
島津試験林	7,045	—
宇治見試験林	3,812	—
計	80,899m ²	13,169m ² (67,897m ²)
注) () は借地		
2. 施 設	関西支場	岡山試験地
庁 舎	5 棟 2,630m ²	1 棟 347m ²
内 訳		
研究室(新館)	1,507	
〃 (別棟)	628	
会 議 室	166	
機 械 室	140	
試 料 室	189	
温 室	2 棟 139	—
ガラス室	1 〃 61	—
隔離温室	1 〃 51	—
殺菌培養室	1 〃 48	—
樹病低温実験室	1 〃 91	—
昆虫飼育室	1 〃 105	—
林木水耕実験室	1 〃 26	—
材線虫媒介昆虫実験室	1 〃 41	—
研究資料調整室	1 〃 64	—
人工降雨室	1 〃 19	—
連絡事務所	1 〃 223	—
そ の 他	10 〃 376	7 棟 267
宿 舎	17 〃 1,698	2 〃 195
計	44棟 5,572m ²	10棟 809m ²

(3) 組 織

(昭和56年3月31日現在)



注: { () はそれぞれの長
* は主任研究官

(4) 人 の う ご き

55. 4. 1 付

本場造林部除草剤研究室長	育 林 部 長	真 部 辰 夫
育 林 部 長	北海道林木育種場	田 口 豊
主 任 研 究 官	造 林 研 究 室	河 原 輝 彦
//	//	市 川 孝 義
//	樹 病 研 究 室	峰 尾 一 彦
調 査 室 (庶務課庶務係併任)	庶 務 課	船 瀬 英 雄
調査室併任解除	経 営 研 究 室	長 谷 川 敬 一
調 査 室 併 任	造 林 研 究 室	山 本 久 仁 雄

55. 6. 1 付

造 林 研 究 室	本 場	加 茂 皓 一
-----------	-----	---------

55.11. 1 付

退 職	庶 務 課 長	菅 原 泰 作
庶 務 課 長	本 場	貝 守 重 視

55.12. 8 付

退 職	庶 務 課 長 補 佐	古 家 満 平
-----	-------------	---------

56. 1.14 付

退 職	調 査 室	吉 田 大 九 正
-----	-------	-----------

56. 1.21 付

主 任 研 究 官	造 林 研 究 室 長	鈴 木 健 敬
造林研究室長事務取扱	育 林 部 長	田 口 豊

56. 1.29 付

退 職	庶 務 課	酒 井 マ ッ ノ
-----	-------	-----------

56. 3. 1 付

造林研究室長事務取扱解除	育 林 部 長	田 口 豊
造 林 研 究 室 長	造 林 研 究 室	河 原 輝 彦

(5) 会 議 の 開 催

(1) 昭和55年度 (第 8 回) 林業技術開発推進近畿・中国ブロック協議会

- 1) この協議会は、林業技術開発推進協議会運営要領 (昭和48年 6 月 8 日付け, 48林野第 108 号林野庁長官通達) に基づき、毎年度開催されるものである。
- 2) この協議会は協議の段階別に、中央協議会、ブロック協議会および都道府県協議会の三つの協議会からなっている。

組 織, 情 報, そ の 他

当支場は、この区分の中の近畿・中国ブロック協議会に属している。

ブロック協議会は毎年度1回、林野庁長官が招集して開催することとなっており、関西支場長は当ブロック協議会の運営を総括し、また会議の庶務は当支場で処理している。

3) 55年度の近畿・中国ブロック協議会の概要は次のとおりである。

会議は55年10月14日、林業試験場関西支場会議室を会場として開催された。

出席者は近畿・中国ブロックに含まれる2府12県（石川・福井・三重・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・鳥取・島根・岡山・広島・山口）の林務部局行政担当者および林業試験指導機関の職員、林野庁研究普及課より研究企画官、大阪営林局から技術開発担当企画官、関西林木育種場長、同山陰支場長、学識経験者として京都大学農学部上山昭則教授、王子製紙株式会社亀山育種場長柴田勝氏であった。なお林業試験場（本場）からは調査部企画科長が、当支場からは支場長、育林部長、保護部長、各研究室長、調査室長ほか係官が出席した。

会議は研究普及課研究企画官、本場企画科長、当支場長のあいさつの後、議事に入った。

まず、昨年度の会議で各府県から提出された課題についての経過報告が林野庁から行われ、続いて国立林業試験場および林木育種場の最近における試験研究の動向について、企画科長、関西支場長、林木育種場長、同山陰支場長からそれぞれ説明があった。

続いて協議事項に入り、山田関西支場長の司会により、各府県から提案された15課題および林野庁より提出された「穿孔性害虫に関する調査研究」、「昭和56年度メニュー候補課題」について協議が行われた。

協議課題は次の6部門に大別される。すなわち経営、造林、保護、特産、防災、その他である。このうち特に保護部門のスギ・ヒノキの穿孔性害虫の被害防除に関する研究について8県から提案されているのが大きな特徴であった。

協議はまず提案のあった各機関から提案趣旨の説明があり、これに対して出席者から意見が述べられ、林野庁およびその他の国の機関から考え方、対応等が述べられた。

林野庁から提出された「穿孔性害虫に関する調査研究」については、研究企画官よりその内容について説明があった。

また、56年度メニュー候補課題については、早く示して欲しいという毎年の各府県からの要望に対し林野庁として答えたもので、本格的な課題設定は今後である旨の説明があった。

最後に、研究企画官から、林野庁の新規予算要求項目とされている重点研究についての説明、企画科長から第17回 IUFRO 世界大会についての連絡があった。

なお、協議内容は「林業技術開発推進近畿・中国ブロック協議会議事録要旨」として取りまとめ、56年1月林野庁へ提出するとともに関係機関に配付した。

(2) 関西地区林業試験研究機関連絡協議会とその研究活動について

- 1) 本協議会は、関西支場管内および四国支場管内の2府16県の公立の林業に関する試験研究機関の長および林業試験場関西支場長、同四国支場長、関西林木育種場長、同山陰、四国両支場長を会員として構成し、その目的とするところは、この地区内における林業試験研究機関相互の連けい、林業技術の向上並びにその普及、発達を図ることである。本協議会はこの目的を達成するため次に掲げる事業を行なっている。

1. 総会の開催

2. 共同研究の推進
3. 研修会および研究発表会の開催
4. 林業技術開発推進協議会との連絡
5. その他本会の目的達成のために必要な事業

以上のうち、55年度は下記の事業が行われた。

1) 第 33 回 総 会

昭和55年9月19日高松市において開催された。

最初に林業試験場土井調査部長から、最近の情勢報告、56年度林野庁予算の概要、その他試験研究推進に関する情勢報告があり、次に1981年9月京都市で開催される第17回 IUFRO 世界大会について説明があった。

続いて島根県林試場長から、最近の全林試協の動向について報告があった。

議事に入り、連絡協議会内に設置されている各部会の部会長から、それぞれの部会の過去1年間の共同研究の経過と成果および今後の計画について報告があり、協議が行われ、調査部長から各部会活動についての考察が述べられた。

国立林試等への要望については、機器整備の拡大、多雪地帯の林業技術の充実、研究要員の育成充実等について提案された。

次に部会長の委嘱の更新、役員改選が行われた。

2) 各部会活動の状況

当協議会には9の部会があり、共同研究を行なっている。部会活動には当支場研究員も参加し、共同研究の実施、研究情報の交換および助言など、公立研究機関とは研究上の緊密な連絡をとっている。

なお、林野庁研究普及課および林試本場からは可能なかぎり担当係官の出席を願っており、大阪・高知両営林局あるいは管外の公立林試が参加している部会もある。

55年度中に行われた部会の開催は次のとおりである。

部 会 名 (共同研究班)	開 催 年 月 日	開 催 場 所	当 番 機 関
育 苗	55. 9. 25 ~ 26	京 都 市	林 試・関 西 支
特 産 (シイタケ)	55. 9. 25 ~ 26	高 知 市	高 知 林 試
経 営	55. 10. 7 ~ 8	山 口 市	山口・センター
特 産 (マツタケ)	55. 11. 6 ~ 7	松 江 市	島 根 林 試
立 地	55. 11. 6 ~ 7	徳 島 市	徳島・センター
林 業 機 械	55. 11. 7 ~ 8	美 作 町 (岡山県)	岡 山 林 試
樹 木 保 全	55. 11. 27 ~ 28	丸 岡 町 (福井県)	福 井・センター
育 種	56. 1. 21 ~ 22	松 江 市	島 根 林 試
保 護	56. 1. 29 ~ 30	京 都 市	京 都 林 試
育 林	56. 1. 29 ~ 30	伊 勢 市	三 重・センター
特 産 (ク リ)	56. 3. 12 ~ 13	輪 島 市	石 川 林 試

組 織, 情 報, そ の 他

(3) 業務報告会の開催について

昭和54年度業務報告会は55年5月12日～16日の間に開催され、各研究室、試験地より報告が行われ、またプロジェクト研究についての報告も行われた。

(6) 受託研究, 調査, 指導

用 務	委 託 者	用 務 先	実施期日	出 張 者	
				研 究 室	氏 名
「農耕地に施用する有機物資材をめぐる諸問題」講演および指導	関西土壌肥料協議会	山口市湯田温泉	55. 7. 9 ～ 7.11	土じょう	佐藤 俊
重要水源山地整備治山事業調査の現地指導	林業土木コンサル タンス大阪支所	鳥取県日 野郡日南 町	55. 7.28 ～ 7.31	土じょう 〃	佐藤 俊 吉岡 二郎
「苗畑の土壌改良及び簡易な鑑定法 (実習)」に関する講師	三重県林業技術セ ンター	三重県久 居市井戸 山町	55. 8. 4 ～ 8. 5	土じょう	衣笠 忠司
「松くい虫及びその防除について」 の講師	京都府船井郡瑞穂 町	京都府船 井郡瑞穂 町	55. 8. 5	樹 病	紺谷 修治
造林木の枯死原因の分析についての 調査指導	滋賀県神崎郡永源 寺町	滋賀県神 崎郡永源 寺町	55. 8.12 ～ 8.13	樹 病	紺谷 修治
「松くい虫の試験研究の動向と防除」 に関する講師	三重県林業技術セ ンター	三重県一 志郡白山 町	55. 8.28 ～ 8.29	昆 虫	小林 一三
松くい虫被害の調査	林 業 薬 剤 協 会	岡 山 市	55.11.11 ～11.12	昆 虫	小林 一三
保全計画調査（土じょう調査）	水利科学研究所	広島県安 芸郡江田 島町	55.11.17 ～11.22	土じょう 〃	佐藤 俊 吉岡 二郎
穿孔虫害指導調査	鳥取県林業試験場	鳥取県八 頭郡河原 町	55.12. 2 ～12. 3	昆 虫	小林 一三
収穫予想表等計算業務の現地指導	日本林業技術協会	和歌山県 日高郡竜 神村	55.12.15 ～12.18	経 営	長谷川敬一
緑花教室「庭園木等の病虫害の防除 について」の講師	和歌山県植物公園 緑花センター	和歌山県 那賀郡岩 出町	56. 1.21 ～ 1.22	保護部長 昆虫	佐保 春芳 小林 一三
木質系エネルギー活用に関する調査	日本住宅・木材技 術センター	東 京 都	56. 3. 6 ～ 3. 8	経 営	黒川 泰亨
林分密度管理図および間伐指針表の 調整	日本林業技術協会	鳥 取 市	56. 3. 9 ～ 3.10	経 営	長谷川敬一
〃	〃	鳥根県邑 智郡川本 町および 松江市	56. 3.25 ～ 3.27	経 営 〃	上野 賢爾 長谷川敬一

(7) 当 場 職 員 研 修

氏 名	研 修 先	研 修 期 間	研 修 内 容
藤 枝 基 久	野 菜 試 験 場	55. 7. 3～ 7. 4	FÖRTRAN の初歩（四則演算，入出力，くり返し，配列処理）の講義及び演習
市 川 孝 義	筑波農林研究団地共同利用研修施設	56. 3. 25～ 3. 27	昭和55年度農林水産試験研究機関研究員の公害等に関する研修

(8) 技 術 研 修 受 入 れ

氏 名	所 属 機 関	研 修 期 間	研 修 内 容
上 山 泰 代	兵庫県立林業試験場	55.11. 4～12. 3	樹木の病害に関する試験手法
瀧 尻 富士雄	三重県林業技術センター	55.12. 1 ～56. 2. 28	人工造林の更新および保育技術
石 橋 公 雄	島根県農林水産部林政課	56. 2. 9～ 2. 28	優良材生産の研究手法

(9) 海 外 出 張

氏 名	出 張 先	出 張 期 間	出 張 内 容
田 中 潔	アメリカ合衆国カリフォルニア州リバーサイド	55. 6. 21～ 6. 29	地中海及び温帯森林に及ぼす大気汚染の影響に関するシンポジウム参加
鈴 木 健 敬	フィリピン	56. 1. 21 ～58. 1. 19	フタバガキ科樹種の更新ならびに竹の造林に関する研究

(10) 見 学 者

(55. 4. 1～56. 3. 31)

		計	内 訳						備 考
			国	府 県	大 学	そ の 他 学 校	林業団体	一 般	
国 内	件数	217	83	49	5	4	36	40	
	人数	912	185	172	56	173	262	64	
国 外	件数	19	アメリカ(3), インドネシア(1), オーストリア(1), カナダ(1), 韓国(6), ソロモン(2), タイ(2), 台湾(11), 中華人民共和国(7), 西ドイツ(2), パキスタン(1), パラグアイ(1), ビルマ(1), フィリピン(3), ブラジル(3), ペルー(1), ホンジュラス(1), メキシコ(1)						() は人数
	人数	48							
合 計	件数	236							
	人数	960							